



## 環境リモートセンシング研究センター長就任挨拶

私、久世宏明は、平成22年4月から環境リモートセンシング研究センターのセンター長を務めることになりました。就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

環境リモートセンシング研究センター(CEReS)は、平成7年度に「全国共同利用研究施設」として3研究部門、1開発運用部の体制で発足しました。その後、平成16年度の千葉大学の独立行政法人化にともなって「中期目標・中期計画に記載された全国共同利用研究施設」としてCEReSとしての第2期の活動を開始、プロジェクト制に基づいた研究活動を展開して参りました。この間、平成19年度から4つの大学附置センターの協同による「気候診断系に関わるバーチャルラボトリー(VL)の形成」プロジェクトを開始して全球の気象衛星データの収集・解析を担い、また、平成20年度からは「地球温暖化寄附研究部門」を開設して、地球温暖化と気象・海洋情報の活用に関する研究を行ってきています。今般、平成22年度からスタートする6年間の第2期中期目標・中期計画期間においては、文部科学大臣の認可を受けた共同利用・共同研究拠点として、CEReSとしての第3期の活動を開始することとなりました。



共同利用・共同研究拠点は、「大学の研究能力を活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することによって我が国の学術研究の発展を図る」ことが、その最大の眼目になっています。CEReSは、これまでの歩みと同様、環境リモートセンシングに関する研究領域の中核的な研究拠点としての積極的な活動を通じて、リモートセンシング研究の発展と、リモートセンシングを利用した環境研究の発展に貢献していきます。その際、共同利用・共同研究拠点としてのセンターの運営には、とりわけ、関連する研究コミュニティとの十分な意思疎通が必要であり、新しく発足する拠点運営委員会が中心となってCEReSの活動が時代の要請、社会の要請に応えたものとなるように不断の見直しを行っていきたく思います。同時に、国立大学全体の財政状況が厳しい環境のもとで、千葉大学におけるCEReSの拠点としてのあり方については全学の中長期ビジョンの方向性と結びつけた真摯な議論を行っていくことが必要であると思われまます。CEReSの教員はこれまで、先端的研究を通じて大学院教育を担い、国内外において環境とリモートセンシング分野の研究者・技術者の育成に役割を果たして参りました。第2期中期目標・中期計画期間中においても、千葉大学大学院理学研究科と融合科学研究科での活動を通じて、人材育成への貢献を図っていきたく考えております。

これまでの15年にわたる活動を通じて、CEReSはとくに、センサ開発、情報抽出、環境変動評価の3つの重点分野に多くの実績をもっています。これら3分野の強化・連携を図るため、現在、CEReSでは、これまでに実施してきたプロジェクト制の評価・総括と、それに基づいたプロジェクト再編、すなわち新「プログラム」制度の確立に向けてさまざまな議論を行っているところです。小型マイクロ波衛星を含む新しいセンサ、バイオマス量や二酸化炭素など温暖化気体を含む大気微量成分検出に向けてのアルゴリズム開発、各種の地上検証システムの開発と運用など、衛星リモートセンシングが「科学的知見と理解に基づいた環境研究」に向け、そのもてるポテンシャルを最大に発揮できるよう、CEReSの力を傾注して参ります。このような研究活動が、水問題、食糧問題、地球温暖化、環境汚染問題など人類が直面する喫緊の諸課題に対し、国立大学付置の研究センターとしての社会貢献につながっていけばと考えております。

皆様のご助言とご支援をお願い申し上げます。

平成22年4月1日

環境リモートセンシング研究センター長  
久世宏明



---

## ダブルディグリー・プログラム インドネシア短期留学報告

千葉大学環境リモートセンシング研究センターとバンドン工科大学（バンドン市）、ガジヤマダ大学（ジョグジャカルタ市）、ウダヤナ大学（デンパサール市）が取り組んでいるダブルディグリー・プログラムの一環として、3月2日～3月13日にCEReS所属の学生で理学研究科の島田利元、粕谷真史、松本崇嗣、Gede Karangの四名が各大学に短期留学しました。また、滞在中には、ウダヤナ大学において行われた千葉大学・山口大学・JAXA共催シンポジウムにも参加し、教育・学術交流を行いました。

このダブルディグリー・プログラムは日本とインドネシアにおける両国間での学生交換によって両者の教育・学術交流を行うことを目的としています。現在インドネシアからの留学生は増えているものの、日本側からの留学生派遣が遅れているため、その先遣隊として今回以下のような日程で短期留学を行いました。



<3月2日、3日>

ジャワ島バンドン市に位置するバンドン工科大学において学術交流を行いました。バンドン工科大学では海洋シミュレーションや地震研究等を通じ京都大学との交流等も行っていきます。四名はここで研究室見学および研究発表会を通じ学術交流を行いました。



<3月4日～6日>

ジャワ島ジョグジャカルタ市に位置するガジャマダ大学において地理学部長ならびに諸教員方との懇談、学術交流および風性砂州の研究を行っている研究所見学を行いました。



<3月7日～12日>

バリ島デンパサール市にあるウダヤナ大学において千葉大学・山口大学・JAXA 共催シンポジウムに参加しました。

また、両大学の学生や教員が参加した研究発表会における学術交流、ウダヤナ大学学長との懇談、およびロンボク海峡とタバナン地区水田地帯での現地調査を行いました。



報告：理学研究科 島田利元